

『見本とされたあなた』

'20/05/31(ライブ礼拝)

聖書箇所：I テモテへの手紙 1 章 12-17 節(新約 p.406-)

皆さん、おはようございます！今日は、年に1度、聖霊が下ってきてくださったことをお祝いする「ペンテコステ」の日であります。今から約 2000 年前、イエス様が約束してくださった通り、聖霊なる神が下ってきてくださって、私たちクリスチャンの内に内住し、それ以降、ずっと、聖霊なる神様は、いろんな形で、私たちのことを助け導いてくださっています。どうか、心からの感謝と献身の思いをもって、今日の礼拝を神様に捧げてまいりましょう！

<メッセージ>

さて、皆さんは、いかがお過ごしでしょうか？新型コロナのせいで、なかなか、いろんなことが思い通りにいかず、ストレスが溜まってはおられないでしょうか？…実は今日、皆さんと一緒に学んでいきたい聖書のみことばは、I テモテ 1:12-17 です。まず初めに、この 12 節をご覧くださいと、パウロの言葉で、『私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。…』とあります。また、最後の 17 節では、神をほめたたえる「頌栄(しょうえい)」というものが書かれています。詳しくは言えませんが、この当時のパウロが経験していた苦難や迫害と言いますものは、現代の私たちとは比べ物にならないほどのものだっただろうと思われまふ。しかし、そんな中であっても、使徒パウロは、神に感謝し…、神をほめたたえているのです。

皆さんは、いかがでしょうか？…ひょっとすると、皆さんは様々なものに心奪われて、神に感謝する時間や機会を無くしてしまっていないでしょうか？ひょっとしたら、皆さんは毎日の仕事や家事、日常生活の忙しさや様々な問題などに心を奪われてしまって、神様から与えられた大切な務めである「神様をほめたたえる、神のみこころを行なう」ということが、おろそかになってしまっていないでしょうか？

正直、難しいのは分かっています。皆さんの中には、毎日が忙し過ぎて、それこそあつという間に過ぎていき、うっかりしていると、神様のことだけでなく、自分が生かされている目的、自分が何をしなければならぬかということも忘れてしまって、アツと言う間に1週間、2週間が過ぎ去っていってしまう…。そんな方もいらっしゃるかも知れません。また、それだけではなく、ある時に私たちに襲いかかってくる問題…。神様に感謝をささげるところか、「神様、早くこの問題の解決を与えてください！神様、一刻も早く、この状況から私を助け出してください！」とばかり祈ってしまうような、そんな状況の中に、今現在、皆さんの内のどなたかがいらっしゃるかも知れません…。

命題：神様が、あなたに対してなしてくださる働きとは？

今日は、愛と恵みに満ちた、天の神様が、その神様を信じて救われた皆さんにしてくださる“働き”について学んでいきたいと思ひます。実は、今日のテキストである I テモテ 1:12-17 のみことばは、天の神様が私たちにに対して、なしてくださる3つの働きについて教えようとしてくださっています。まず、聖書の箇所をお読みしたいと思います。

- 12 私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をささげています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な者と認めてくださったからです。
- 13 私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らなかったことなので、あわれみを受けたのです。
- 14 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。

- 15 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。
- 16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。
- 17 どうか、世々の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄えとが世々限りなくありますように。アーメン。

I・神は、あなたを強めてくださる！（12-13 節）

まず、このみことばが、私たちに教えてくれているのは、**天の神様が、私や皆さんのことを“強めて”くださる！**ということです。

●テモテという人物の 特徴！

どうぞ、まずは、12 節をご覧ください。そこには、『私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエス…』とありますでしょう。パウロは、自分が自分自身の力で、ここまで強くなれた！とは言っていないよね？パウロは、「今の自分があるのは、神様の助け、神の働きによるのだ！」ということ、テモテに対して教えようとしているのです。

つまり、ここでパウロは、こんなメッセージをテモテに送っているのです、「確かに、私は、あなたから見たら、何でもできる強いクリスチャンのように見えるかも知れない。しかし、それは、私の力でも、私の努力でもない。ただ、天の神様が、私のことを強くしてくださった結果にしか過ぎないのだ！」と言っているのです。ですから、皆さんもよくご存知でしょ？例えば、パウロは、**ピリピ 4:13**でも、**それと同じようにこう告白しています、『私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。』**って。

まず、テモテという人物ですが、彼は幼い頃から聖書を学んでいた、敬虔な信仰者であったようです。そういったことは、II テモテ 1:3-5 や 3:12-15 などをご覧くださいれば分かります。また、彼はパウロから直接、同労者に選ばれ、それからパウロが殉教するまでの 10 年間以上の多くをパウロと共に行動したと思われる。実は、13 通あるパウロ書簡の内の、6 通にテモテは共同執筆者として名前が挙がっています。恐らく、目が悪かったとされているパウロの代筆を、テモテは担当していたとも考えられています。つまり、それほど、このテモテとパウロとは一緒に、主の働きをしていたのです。

しかし、この「テモテへの手紙 第一」が書かれた当時、当然、彼らと一緒にはいませんでした。恐らく、この時のパウロは現在のギリシャである、マケドニア(現在のマケドニア国の少し南)にいたと思われる(I テモテ 1:3)、そして、テモテの方はパウロと別れて、エペソ(現在のトルコ。イズミール市の南 74Km の辺り？現在は廃墟。)の教会で牧会をしていたと考えられています。そのエペソの教会には、I テモテ 1:3 から分かる通り、私たちが伝えるべき「福音」とは違う教えを語る者たちがいたのです！

恐らく、それは「旧約聖書の様々な人物に関する系図などの空想話のようなもの」であったようです。しかし、残念なことに、その当時のエペソ教会の一部の人たちは、そういったものがさも大切な教理かのように考えてしまって、しょっちゅう、そういったことを議論していたようです。それが、I テモテ 1:3-7 に記されてある、『3 私がマケドニアに出発するとき、あなたにお願いしたように、あなたは、エペソにずっとどまっていて、ある人たちが違った教えを説いたり、4 果てしない空想話と系図とに心を奪われたりしないように命じてください。そのようなものは、論議を引き起こすだけで、信仰による神の救いのご計画の実現をもたらすものではありません。5 この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのない信仰とから出て来る

愛を、目標としています。6 ある人たちはこの目当てを見失い、わき道にそれで無益な議論に走り、7 律法の教師でありたいと望みながら、自分の言っていることも、また強く主張していることについても理解していません。』で言われていることなのです。

その当時、テモテはと言うと、大体、20代後半から30代前半の年代であったと思われる(I テモテ 4:12、『年が若いからといって…』)。そのような年の若いテモテが、様々な問題のある教会で、恐らくは四苦八苦していたのでしょう…。パウロも、自分がテモテをエペソ教会に遣わしたという(I テモテ 1:3) 責任を考え、すぐにでもエペソに行って、何とかしたい！と思いつつも、なかなか思い通りにはいかなかったようです(参照・I テモテ 3:14、4:13)。この時、テモテに与えられていた状況は、彼には十分すぎる程の重い責任でありました。そのことを示唆していると思われるみことばが I テモテ 5:23 の、『これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のためにも、少量のぶどう酒を用いなさい。』です。恐らく、この時のテモテは、ストレスから来る胃腸の疾患を患っていたのかも知れません。

ひょっとしたら、この当時、テモテは、こんなことを思っていたのではないのでしょうか？「あのパウロに比べて、自分は弱い。色んな問題に対してどのように対処すべきか分からない…。それどころか、自分がこのような働きに就いているのは、本当に神様のみこころなのか？」そのような思いが、この時のテモテの内であったとして、全く不思議ではありません。

●パウロが、テモテに「訴え」たかったこと！

恐らく、このような思いはテモテに限らず、多くの献身者にあることだと思います。実は、私自身も、様々な困難の中にある時、あるいは、何か失敗？をしたと思うような時、あるいはまた、自分に与えられている責任の重さを痛感した時などに、未だに、「迷い」のようなものが生じることがあります。…サタンは非常に巧妙で、狡猾です。必ず、私たちの1番弱い所…、大切な所…、急所を突いてきます。だから、私たちのような働き人のためにも祈りは必要なのです。

でも、皆さん！神様は、クリスチャンたちに「あれをせよ！これをしなさい！」と言って、そのまま、放っておかれるような御方ではありません！神は、皆さんが、神様に従っていくだけの力を与えてくださるのです。だから、ピリピ 2:13 には、『神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。』とありますでしょ。神が、皆さんの内にみこころを示してくださるばかりでなく、神御自身が『事を“行わせて”くださる』のです！

そうして、その次に、パウロは、自分がイエスに感謝をささげる理由を挙げてくれています。その1つ目は、神が自分に「務め」を与えてくださったということです。12 節の後半をご覧ください、『キリストは、私をこの務めに任命して…』とある通りです。実は、このパウロに与えられた務めとは、「みことばを多くの人々に語り、人々を教え導く働き」でありました。すべてのクリスチャンが、このパウロと全く同じ「賜物と務め」とが与えられているわけではありません。しかし、聖書のみことばを見た時、すべてのクリスチャンたちに対して、天の神様が、神の栄光を現わすための賜物を、イエス様を信じて救われた時に与えられたことが教えられています(参照：I コリント 12:4-11)。

このように、天の神様は、パウロに賜物を与えられたように、ここにいらっしゃる皆さんお1人お1人にも、何か特別な賜物を与えてくださっています。それは、皆さんが、それぞれの教会にあってなすべき、務めがあるからなのです。皆さんが遣わされた教会にあって、皆さんの代わりなどおりません。それは、その人に与えられた全く同じ賜物が無いからです。だから、私たちは、それぞれが、自分に与えられた賜物を用いて、主のために働いていくことが必要なのです。そうでしょ！皆さん？

それと、もう 1 つ、ここで、パウロは、イエス様に感謝をささげる理由を挙げてくれています。それは、天の神様が自分のことを、『忠実な者』としてくださったからです。…と言いますのも、今日のみことばの 12

節で用いられている、『忠実』という言葉ですが、ここで使われている「πιστός」というギリシア語の言葉は、パウロ書簡で多くの場合、「神の真実さを表す言葉」として用いられています。…と同時に、「信者＝クリスチャン」を表す場合にも用いられているのです。

ですから、例えば、I コリント 6:15 では、ここで使われている言葉が、『信者』として訳されています。また、I テモテ 4:3 では、『信仰があり…』という風に訳されています。また、これら以外でも、例えば、I ペソ 1:1 やコロサイ 1:2 では、救われたクリスチャン全体を表す言葉として、『忠実な…』という風に訳されています。

良いのでしょうか？つまり、この「忠実」という資質(＝特徴)は、決して、一部のクリスチャンたちだけに与えられるようなものではなく…、すべてのクリスチャンたちに与えられるものなのです。だって、聖書のみことばは、常に、本当に、真唯一の神様を信じ、その神様によって救われた者は皆、必ず神様の前に忠実である！ということを見せてくれているじゃないですか！

例えば、それは、マタイ 7 章のみことばです。あそこで、イエス様は、本当に救われた信者たちと、一見救われているように見える者たちも、その違いは、彼らが結ぶ「木の實」を見れば、明らかになる！ということを見せてくださったでしょ？また、マタイ 25 章だって、そうです。あそこで、イエス様は、この世の終わりに関連して、本当に救われている者たちとそうではない者たちとを分かりやすく比較して、教えてくださっています。そうだったでしょ？①油を用意していた賢い友人たちと、そうじゃなかった女性たち、②ご主人から預かったタラントを用いた忠実なしもべたちと、悪いなまけ者のしもべ、③困っている兄弟たちに、キリストの愛を実践した者たちと、そうでなかった者たち…。その違いは、彼らの生き方であり…。まあ言えば、行動です。でも、どうか、勘違いをしないでくださいね。彼らの行動が、彼らのことを救ったではありません。彼らの生き方が、その信仰を…。まあ言えば、「彼らの忠実さを証した」のです。

どうか、皆さん。今日のみことばの 12 節にある、『忠実な者と認めてくださった…』という表現の、「認める」(ἡγνοῦμαι)という言葉に注目してください。ひょっとしたら、私たちが「認める」と聞くと、私たちの行ないを、神様が評価して下さるような印象を受けるかも知れませんが、実は、ここで使われている、ギリシア語の言葉は、「①支配(＝コントロール)する、指導する、②考える、思う、想像する」というイメージを持った言葉で…。このみことばが教えてくれていることは、神様が、パウロのことを、『忠実な者』としてくださった、ということなのです。

パウロも「かつてはそうだった」とここで語っています。この 13 節 a、『私は以前は…者でした。』って…。ここ(12-13 節 a)は、日本語では3つの文になっていますが、実は、ギリシア語では途中でコマがある(『感謝をささげている』の後に)だけで1つの文章になっているのです。つまり、『私は以前は、～者でしたが、そんな私をキリストは～』という感じ。少し感じが変わりますでしょ？

皆さんも、きっと、ご存知でしょう？実は、かつてのパウロは、熱心なクリスチャンではなく…。クリスチャンたちを迫害しては、牢屋へと送っていたような人物でありました。言わば、「クリスチャンの敵」であったのです！しかし、そのようなクリスチャンの敵であったパウロのことを、天の神様は救い…。そして、神の務め(御業)に任命してくださり、忠実な者に変えてくださり、かつ強めてくださっている！⇒だから、パウロは、そういったすべてのことを、神様に！また、イエス様に感謝しているのです！

そして、パウロが言いたかったのは、それだけじゃありません！パウロは、テモテに対して、こう言っているのです。「テモテよ！かつての私がそうであったように、あなたも神の導きによって、今の働きに任命されているのだ！また、私に対して主がしてくださったのと同じように、あなたも神によって強くされるのだ！いや、今現在、あなたは強くされつつあるのだ！」ということを見せてくれているのです。実は、それと同じことを、今日のみことばは、私たちに教えてくれています。私たちも、その同じ神様によって強くされるのです！神様のお働きによって…。

17 どうか、世々の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄えとが世々限りなくありますように。アーメン。

●ここで、パウロが告白した内容とは？

どうか、ここ 15 節の、『私はその罪人のかしらです』という表現に注目ください。…と言いますのは、この当時、この手紙を受け取ったテモテたちは、多分驚いたはずだからです。と言うのは、この言葉が「現在形」で語られてあるからです。つまり、これはパウロの過去のことだけを語っているのではなく、「現在もそうだ！今も、私は罪人のかしらなのだ！」と言っているからです。「神様は、過去に大きな…、また多くの罪を犯した私のような者でさえ救ってくださった…。それどころか、救われた後も弱く、多くの罪を犯し続ける自分に対しても、『寛容』(＝忍耐)を示してくださっている！」そうパウロは訴えているのです。

こんな罪深い自分でも…、あるいは、愚かな弱い自分でも、神は救い、あわれんで、絶えず寛容を示し続けてください。それは、16 節、『今後彼(＝イエス・キリスト)を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々(＝私たち)の見本』であると言うのです！罪人であるがまま、神に変えられ、神に用いられたパウロは、私や皆さんにとっての『見本』なのです！そして、その連続？は今も続いているのです。

ひょっとしたら、皆さんは、『見本』という何か大層な気がするかも知れませんが、ここでパウロが言っているのは、決して、自分の賜物や働き、あるいは、自分が残してきた功績などを指して言っているのではありません。そうでしょ？…そうではなくて、ここでパウロは、過去の自分の過ち、あるいは、今現在の罪深さを説明して、こんなダメな自分でも神は救ってくださった…。その良い例だということをパウロは教えてくれているのです。

ですから、どうか、クリスチャンの皆さん。私たちが伝道する時、人々に証しする時、必要(実際)以上に、自分を清く…、さも立派であるかのように見せないでください。時々、「家族や旧友には伝道しにくい。だって、かつてのちゃんぼらんな自分を知っているから…」というような話を耳にします。しかし、もし皆さんが、本当に変えられたら、その変化を一番分かってくださるのは、その人たち(家族や旧友たち)じゃないですか？「どんな人でも救われる！どんな人でも、神は変えられる！」そういうことを、パウロは伝えたかったのです。

でも、ここで注意しておかなければならないことは、決してパウロは、「罪を犯しても、神は寛容な御方だから(無条件で)赦してください」とは教えていないことです。ここで、パウロは、過去の自分の過ちを振り返って、そして、今も、自分が罪を犯し続けている弱い存在であることを思い起こしているのです。実際に、罪に対して、無頓着？なわけでは、決してありません！そうでしょ？

●私たちが、自分自身の罪を思い起こす時…

ここで、パウロがしているように、私たちが自分自身の罪を思い起こすとうなるのでしょうか？その時に、私たちは…

①高慢でなくなります。…自分の犯した罪を思い起こすことは、あなたを様々な高慢から守ってくれます。それとは逆に、自分が罪ある存在であるということを忘れてしまう時、私たちは高慢になって、すぐに他人を裁いたりして、罪を犯しやすくなってしまいます。

②益々、神に感謝するようになります。…私たちが自分の罪を思い起こす、その時、同時にクリスチャンであるなら、その罪を赦されたことも覚えるはずですよ。皆さん、覚えてくださっているでしょ？ルカ 7:40-47 で、イエス様は、「500 デナリを赦された者と 50 デナリを赦された者の例え」使って話してくださいました。あ

II・神は、あなたに喜びを与えてくださる！(14 節)

今度、2つ目に私たちが見ていきたいことは、天の神様が、私や皆さんに対して、特別な喜びを与えてくださる！ということです。…それは、私たちの願いが叶ったからとか、自分の目標を達成できたことから来るような満足感ではありません。これは、真の神様しか与えることのできないような喜びなのです。

14 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエスにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。

実は、ここ 14 節で『恵み』というように訳されている言葉は、1 テモテ 1:12 では『感謝』と訳されてあるように、「感謝」とも訳すことのできる、ギリシヤ語の言葉が使われてあります。…ということはつまり、神様の与えてくださる恵みが、多くある(＝多く与えられてある)時には感謝(＝喜び)もあるのです。ここで、パウロは、喜びが益々満ちあふれるための“秘訣”について教えてくれています。

その秘訣を簡単に言うならば、神様への信仰と愛を増すことです！だから、今日のみことばの 14 節にも、『キリスト・イエスにある信仰と愛とともに…』とありますでしょ？ここで、『信仰』と訳されてあるギリシヤ語の言葉は、「信頼」とも訳すことのできる言葉です。

つまり、私たちがもともと、この神様のことを信仰(＝信頼)し、その神様に対する愛の思いが増していくなら、皆さんに対する神の恵み(感謝や喜び)はさらに増し加えられるのです。そこで、大切なのはあなたの選択であり…、神の側ではないのです。また、同じように大切なのは、あなたの内側、つまり、「神に対する思い」であり、決して、何らかの奉仕やプログラムではありません！

また、この箇所は、直前の 13 節との対比とも見ることができます。つまり、14 節の、『信仰』に対して、「(神を)信じていない、神をけがす」、14 節の、『愛』に対して、「迫害する者、暴力をふるう者」と考えるなら、この神様に対する信頼と、神と人々に対する愛をあなたが益々実践していく時、益々、あなたの内に神の恵み(＝神の与えてくださる感謝)が増し加えられるのです。

逆に…、信仰を持つ前の私たちって、今、私たちが感じるような恵みや感謝なんていう思いが、私たちにありました？⇒無かったでしょ！？だから、多くの人は、神様を…、信仰を捨てることのできないのです！

「自分には、神様からの特別な恵みが与えられているなんて信じられない！いつであっても、どんな環境の中にあっても、溢れ出てくるような喜びなんて無い！」、そんな風につぶやいている人たちは、神様に対する心からの信頼も無いでしょう。と同時に、神様への、強い大きな愛も無いでしょう。「先に、神様がこんなことをして(＝願いを叶えて)くれたら、神様を信頼し、神様に従う…」というのでは、全く逆のこと。…私たちに必要なのは、まず、神様への思い、信仰を新たなものにすることなのではないでしょうか？

III・神は、あなたを 用いて くださる！(15-17 節)

最後、3つ目、天の神様は、私やあなたのことを救ってくださっただけじゃない…。救った私たちを、神様のために“用いて”くださる御方なのです。

15 「キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世に来られた」ということばは、まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。

16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリストが、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。

そこで、イエス様は、罪深い者たちと、実はそれほど罪深くない者たちがいるということをお話されたのでは
ありません。あそこで、イエス様は、私たちが、どれほど、自分自身が犯してきた罪を自覚しているかどうか、
ということだったはずですが…。私たちは皆、自分の罪深さを、しっかりと覚えるべきなのです。どうか、皆さん、
イエス様が、「山上の説教」で、「心の貧しい者は幸いです…」と教えてくださった、あのみことばを思い出
してください。

③自分自身と他の人々を勇気づけることができます。「こんな自分でもここまで変えられた！ あんな人だ
って、ここまで変えられた！」というように、私たちは如何なる人物でも、状況でも、神様の御業を信じて、
期待し続けることができます。

かつて、私は、かなり以前に、こんなニュース(「ニュース 23」で)を観たことがあります。それは、元暴走
族のメンバー(恐らくリーダー?)が、イエス・キリストを信じる信仰で救われて、大きく変えられた姿を、か
つて同じグループだったメンバーが見て、「自分もこんな状況から抜け出したい！ 早く足を洗いたい！ で
も、そんなことができるかどうか心配でたまらない。でも、あの変えられたリーダーを見てると、自分にも
可能性があるのかも知れない…」という、そんな気持ちになるのだと、インタビューで答えていました。

どんな罪人であっても、神は救ってください。どんなに頑なな人物であっても、神はその人を変えること
が御出来になる！ そういったことを、パウロはここで訴えているのです。たくさんの方々の困難の中で、もがき苦し
んでいるテモテに対して…。いえ、テモテだけではありません！ 私も、あなたも変えられるのです！ 「私は、
多くの人たちが神によって変えられていく…、そのことの前例(一例)にしか過ぎないのだ！」そう、パウロは、
私たちに教えてくれているのです。

また、このことは、もう1つの可能性(励まし)をテモテに与えたはずだと思われま。…というのは、パウ
ロのような、かつては、福音に対して頑なであった人物…、また、神様に対して反抗的であった人物…、
かつては、クリスチャンたちを迫害し、殺すことに同意していたような、そんな人物であっても神様は大きく
変えてくださる！ ということです。

この当時、テモテの周りにも居たであろう、「救いを拒み続ける人々」や「間違ったことを教える人々」、
「反抗的な人々」、そんな人々たちであっても、全能なる神は変えることが御出来になるって…。だから、
決して、希望を失わないで、神を信じて待とう！ 働きを続けていきなさい！ そんな勇気を、パウロは、テ
モテに与えたかったのではないのでしょうか？

最後 17 節、神様をほめたたえる内容、つまり、「頌栄(しょうえい)」が記されてありますが、これこそが
パウロの究極の願いであり…。目的でありました。こんなにも素晴らしい神様…。私たちのことを強め…。
あわれんでくださって、多分な恵みを与えてくださり、私たちを変えることによって、さらに、神の栄光のため
に用いてくださる！ そんな神様だから、パウロはほめたたえているのです！ どんな人であっても、神は大き
く変えることが出来る！ どんな人物だって、神は用いてくださる。そして、またさらに、多くの人を救いへと
導いてくださる…。

今回のみことばの 17 節に、『世々の王』とありますが、イスラエルの人たちにとって、『世』とは「今の世」
と「来たるべき世」という2つの時間的な概念があったそうです。「現代にあっても、また次の世であっても」と
いうことは、「永遠」とほとんど同義です。つまり、パウロは、私たちに救い、変えてくださる神が、永遠にす
べてを支配されている王であり、『滅びること(が)ない』と言っているのです。今、地上にあつて、自分
たちを支配しているローマ帝国の王も、またローマ帝国そのものも、必ずいつかは滅んでいく…。実際、そ
のようになりました。…しかし、私たちのことを変え…。導いてくださっている天の神様はそうではない！ こ
の唯一真の神様にこそ、『誉れと栄えとが世々限りなく』あるように願っているのです。

いかがでしょうか？ 皆さんのことを愛し、選び、救いへと導いてくださった御方は、こんな神様なのです。
あなたが、どれほど神様の前に汚れた存在であっても、あなたが本当に望むなら、あなたは変えられます。
あなたがどんなに弱く、愚かな存在であっても、あなたが神を信じ愛するなら、あなただって、変えられま
す！

そして、そんな風に変えられた皆さんを見て、それを励みとして、さらに多くの人たちが救われていくの
です！ いかがでしょう？ 皆さん！ 皆さんは、自分が神の全能の力によって変えられ、これからもお、
益々大きく変えられていくのだ！ という希望をもって歩んでいらっしゃいます？

そして、まだ、この救いをお受けになっていらっしゃらない皆さん。あなたは自分の内に潜む罪に対して、
どうしようもない“みじめさ”をお持ちではないのでしょうか？ 神様はあなたを救い、正しい者へと変えようと
してくださっているのです。もし、あなたが、「自分も、この神様によって変えられたい！」と願うなら、神様は
あなたのことを救い、変えてくださいます。どうか、今日、この神様の救いを受け入れて欲しいと思います。
最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。